

ペガちゃんフロア 「カヌー」(潮位が高い場合) [小学5年・理科]

ねらい	本所の活動プログラム「カヌー」と第5学年理科単元「流れる水のはたらき」と関連させたプログラムである。万之瀬川下流域の自然環境を生かして、5年生理科単元「流れる水のはたらき」の終末段階として、これまで学習してきた内容を実際の川に出て確認し、知識・理解の定着を図ることをねらいとしている。
概要	カヌー研修で上流まで進行し、船上から川岸の様子を観察し、既習事項を確認することができる。
よさ	○ カヌーに乗りながら、川の流れを体験し、既習した内容(岸壁の様子や岸にある石や砂の大きさ)を目で見て確認することができる。 ○ 前後の活動(オリエンテーションやサイクリング等)でサンセットブリッジから見える河口域の様子を確認することで、学習の内容をより深めることができる。

- 校種・学年 小学校 第5学年
- 教科 理科
- 単元 「流れる水のはたらき」(2学期) 総時数2時間(90分)
- 展開 (例)

過程	主な学習活動 ※ ()…指導者	時間(分)	指導の手立て
導入	1 上ノ山橋付近まで自然散策をする。(引率者)	20	○ GoogleEarthや地図を活用して現在地を確認する。 ○ 既習事項を振り返り、流れる水のはたらきの大小で川岸の様子が変わることを確認する。
	2 学習のめあてをつかむ。(引率者) 万之瀬川は、災害を防ぐためにどのような工夫がされているだろう。	5	○ 川岸からではなく、カヌーに乗りながら流れる水の働きを確認すること伝え、意欲を高めるようにする。
	3 カヌー乗船の事前指導を受ける。(自然の家職員) (1) 乗船前の心得を確認する (2) パドルの使い方を確認する。 (3) 学習の視点を確認する。	55	○ カヌー研修における安全面等について確認する。 ・ ライフジャケットを着用する。 ・ 船頭の指示を聞く。 ・ 指示があるまで白線から先に行かない。
展開	4 カヌー研修をする。(自然の家職員・引率者)		○ 河の両岸で停泊し、流れる水の速さを確認する。 ○ 流れる水の速さによって、両岸の浸食や堆積の様子がどのように変わるか児童の言葉で発言させるようにする。
	5 気付いたことを発表する。(引率者) ・ 川の曲がった箇所では外側で水のはたらきが大きく、内側が小さい。 ・ 内側に比べて外側の流れが速い。 ・ 内側は土や砂が堆積している。	5	○ 岸に上がり、カヌーの上から見て分かったことを確認する。
終末	6 学習のまとめをする。(引率者) 浸食を防ぐために外側はコンクリートで補強されている。	5	

- 事前に準備するもの
(自然の家)： ライフジャケット、パドル、除菌セット、双眼鏡
(学校)： 帽子、タオル、学習ノート、水筒